

令和 3 年度 連携研究スキームによる研究（政策研連携研究課題）
評価報告書

研 究 テ ー マ 名	ポスト新型コロナウイルス時代における食料安全保障のあり方に関する研究のうち「食料の安定的な供給体制の構築に関する研究」
政策研連携研究課題名	食料供給、食料消費の構造的な変化を踏まえた食料安全保障のあり方に関する研究
研 究 実 施 期 間	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度
研 究 の 概 要	本年度は、購買履歴分析、消費者アンケート調査等を行った。購買履歴分析では、コロナ前後における消費者の購買行動の構造的な変化を解明し、無関係なデマが食料供給に与える影響について検討した。消費者アンケート調査では、内食需要が拡大する中で調理済食品に対する意識および消費者像を示した。
評 価 結 果 ○評価会議名及び開催日 ポスト新型コロナウイルス時代における食料安全保障のあり方に関する研究のうち「食料の安定的な供給体制の構築に関する研究」評価委員会 令和 4 年 3 月 1 0 日開催 ○評価委員名 木立 真直 委員 （中央大学商学部教授） 廣政 幸生 委員 （明治大学農学部食料環境政策学科 教授） 竹下 広宣 委員 （名古屋大学大学院生命農学研究科・農学部准教授） ○評価基準	【評価項目毎の評価】（ ）は 3 名の委員の投票数を示す。 ○ 社会的ニーズへの対応 A:大きな意義がある（3） ○ 政策の企画・立案への対応 A:大きな貢献が見込める（2） B:貢献が見込める（1） ○ 学術面から見た研究成果の評価 A:学術的に高く評価できる（1） B:学術的に評価できる（2） ○ 研究計画の妥当性 A:妥当である（3） ○ 研究資源・実施体制の妥当性 A:妥当である（1） B:概ね妥当である（2） ○ 研究目標の達成度 A:達成度は高い（1） B:概ね達成している（2） 【総合評価】（ ）は 3 名の委員の投票数を示す。 2:ほぼ順調であるが、改善の余地がある（3）

・社会的ニーズへの対応 - S.非常に大きな意義がある - A.大きな意義がある - B.意義がある - C.意義が小さい - D.意義は見出しがたい ・政策の企画・立案への貢献 - S.非常に大きな貢献が見込める - A.大きな貢献が見込める - B.貢献が見込める - C.貢献が小さい - D.貢献は見込みがたい ・学術面からみた研究成果の評価 - S.学術的に非常に高く評価できる - A.学術的に高く評価できる - B.学術的に評価できる - C.学術的な評価はやや低い - D.学術的評価は低い ・研究計画の妥当性 - S.非常によい - A.妥当である - B.概ね妥当である - C.やや妥当でない - D.妥当ではない ・研究資源・実施体制の妥当性 - S.非常に良い - A.妥当である - B.概ね妥当である - C.やや妥当でない - D.見直しが必要である ・研究目標の達成度 - S.達成度は非常に高い - A.達成度は高い - B.概ね達成している - C.達成度はやや低い - D.達成度は低い	【評価委員からの主な意見】 ○コロナ禍を非常時の事例として非常時の食供給体制の在り方を考える上で有益な知見を得ている。 ○ポストコロナにおける消費行動の変化の予測は、それに合わせた供給体制の構築する政策立案に貢献する。 ○購買履歴調査、消費者アンケート調査、価格動向調査を組み合わせたコロナ禍の分析は学術的に高く評価できる。 ○現状でも妥当であるが、委託先との連携をさらに強化し、委託先と連動する形の研究計画になればより良くなると思う。 ○人的研究資源は不足気味と思われるが、その下での実施体制は概ね妥当である。 ○査読論文などの公表までに時間を要することもあり、概ね順調に進捗していると考えられる。 ○コロナをめぐる考察は、ウイズかアフターかなどをめぐる議論もあり、まさに現在進行形の研究課題である。そうした中、例えば、オンライン、デリバリー・持ち帰りシェアの拡大について、特に緊急事態宣言中のオンラインは不安群でのみシェアが拡大しているなどの分析結果を提示し、感染不安やリスク回避の傾向を指摘している。今後は、委託先との議論、内外での最新の研究動向も踏まえながら、次年度以降の内容について修正しながら進め、より大きな成果を上げることが期待される。 ○やや遅れ気味のところはあるが、外部環境、内部環境の状況を踏まえれば、研究の進捗状況は良いといえる。委託先の研究成果と当該研究をどのように組み合わせ、課題を達成できるか、最終年度の研究を具体化するにあたって考慮する必要がある。 ○研究環境に制限がある中、一定の成果を挙げている点は評価すべきと考える。ただし、政策立案に資するという観点、学術的評価を高めるという観点から、モデル選択や分析手法については再考していただいた方が良いと考える。
--	---

・総合評価 1.順調に進行しており、問題ない 2.ほぼ順調であるが、改善の余地がある 3.計画等を変更する必要がある 4.中止すべきである	
今後の対応方針	委託先成果を含めた取りまとめについては早急に検討したい。また、これら研究成果についても国際誌を含めて投稿予定であるが、新たな分析手法を含め委託先とも打ち合わせを行いたい。